

東海村で保管されている危険な「高レベル放射性廃液」

ロシアがウクライナに攻め入り、
チヨルノービリ(チェルノブイリ)原
発やザポリージャ原発を占拠。原発施
設が砲撃されるシーンをヨーロッパの
人々はかたずを飲んで見守りました。
36年前のチェルノブイリ原発の爆発事
故を忘れてはいないからです。

日本でも毎日毎日、戦争報道が続
き、「日本も軍備を増強し敵国を攻撃
する力を持つべきだ」「核兵器も必要
だ」と叫ぶ政治家もいます。しかし、
冷静に考えてみましょう。日本の海岸
線にはたくさんの原発や核施設があり
ます。戦争やテロ行為で破壊され、核
物質が飛び散れば、たくさんの命が奪
われ、人の住めない土地になってしまう
のです。

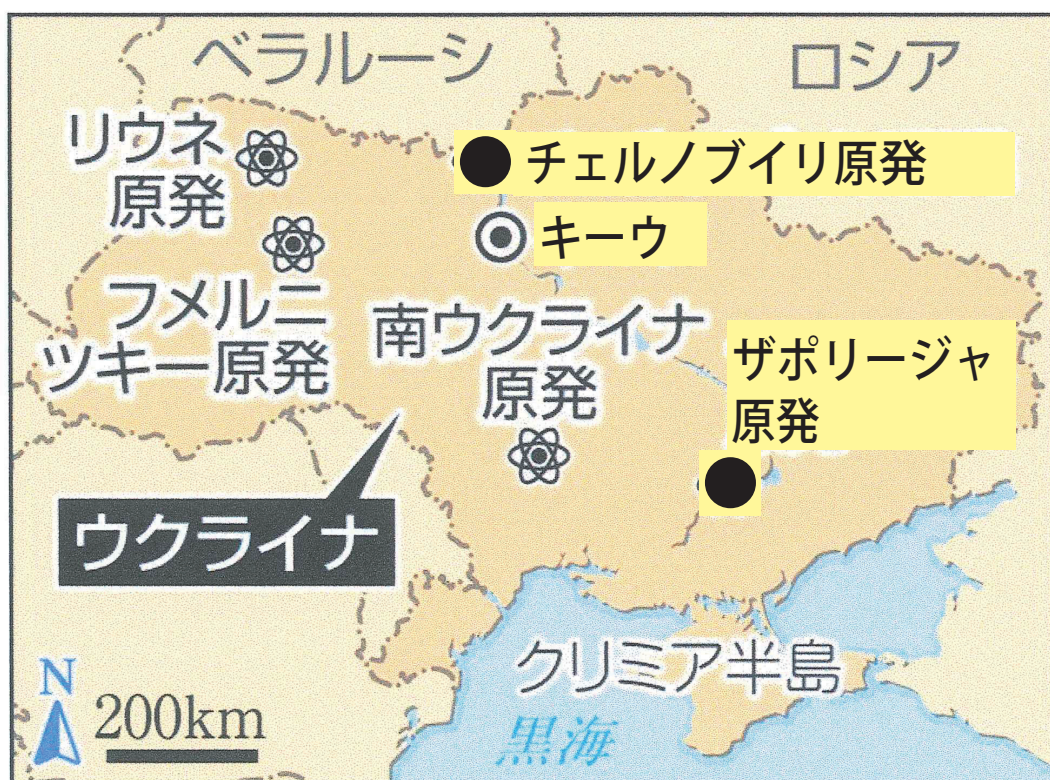
安全保障を考え、敵の攻撃に備える
べきだというなら、まずは原発を全て
止め、撤去し、放射性物質を強固な設
備で保管しなければなりません。原発
再稼働などあり得ないのです。

廃液20%漏れたら死者40万人!?

武力衝突などで施設が破壊され漏
れ出たら何十万人もの命を奪うほど
猛烈な放射性物質が茨城県東海村の
東海再処理施設(廃止措置中)で保
管されています。使用済み核燃料を
再処理しプルトニウムなどを取り出し
た後の高レベル放射性廃液です。人が
近づけば即死するほどの放射能を持っ
ており、固体にする処理ができない
まま約340mも貯蔵されています。

環境経済研究所所長の上岡直見・法
政大非常勤講師は、東海村の施設に保
管されている高レベル放射性廃液に含
まれる放射性物質の20%が放出され
た場合、最悪40万人が死亡し、首都圏の
広範囲で立入禁止や強制移住が必要に
なるとのレポートを公表しています。
しかも、高レベル放射性廃液の貯蔵タ
ンクは原子炉や使用済み核燃料を冷や
すプールより弱い構造だと指摘してい
ます。

(裏面に続く)



核兵器も、原発も、いらない！

日本は、海外に頼んでまで使用済み核燃料の再処理にこだわってきた。しかし、原発は元々、核兵器を作るために開発された技術なので、大量のプルトニウムを保有する日本は、核兵器に転用しないよう国際的に厳しく監視されています。それでも核燃料の再処理をやめない理由は何なのでしょう。いつの日か核兵器を作るためなのでしょう。

高レベル放射性廃液は、青森県六ヶ所村にも約220m³保管されています。六ヶ所村の再処理工場も、廃液のガラス固化技術が破綻して、廃液を処理できる見込みはありません。廃液を保管しているタンクが壊れたり冷却できなくなったら、計り知れない被害をもたらすこととなります。

核兵器での脅かし合いや原発への攻撃・事故、放射能の影響におびえ続ける社会を選ぶのではなく、自然エネルギーの恩恵を生かしながら、核兵器も原発もない、安心して暮らせる社会を目指していきましょう。【組合員N】

■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオン組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁 2010年4月）。

■ 原発で働く労働者と共に

原発は電力会社を元請とした4～8次の下請会社で稼働しています。3.11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため、私たちが毎月11日に街頭宣伝活動を始めて11年目になります。これからも、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！

全造船関東地協労働組合
よこはまシティユニオン

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505
TEL 045-575-1948
yuniyoko.sakura.ne.jp